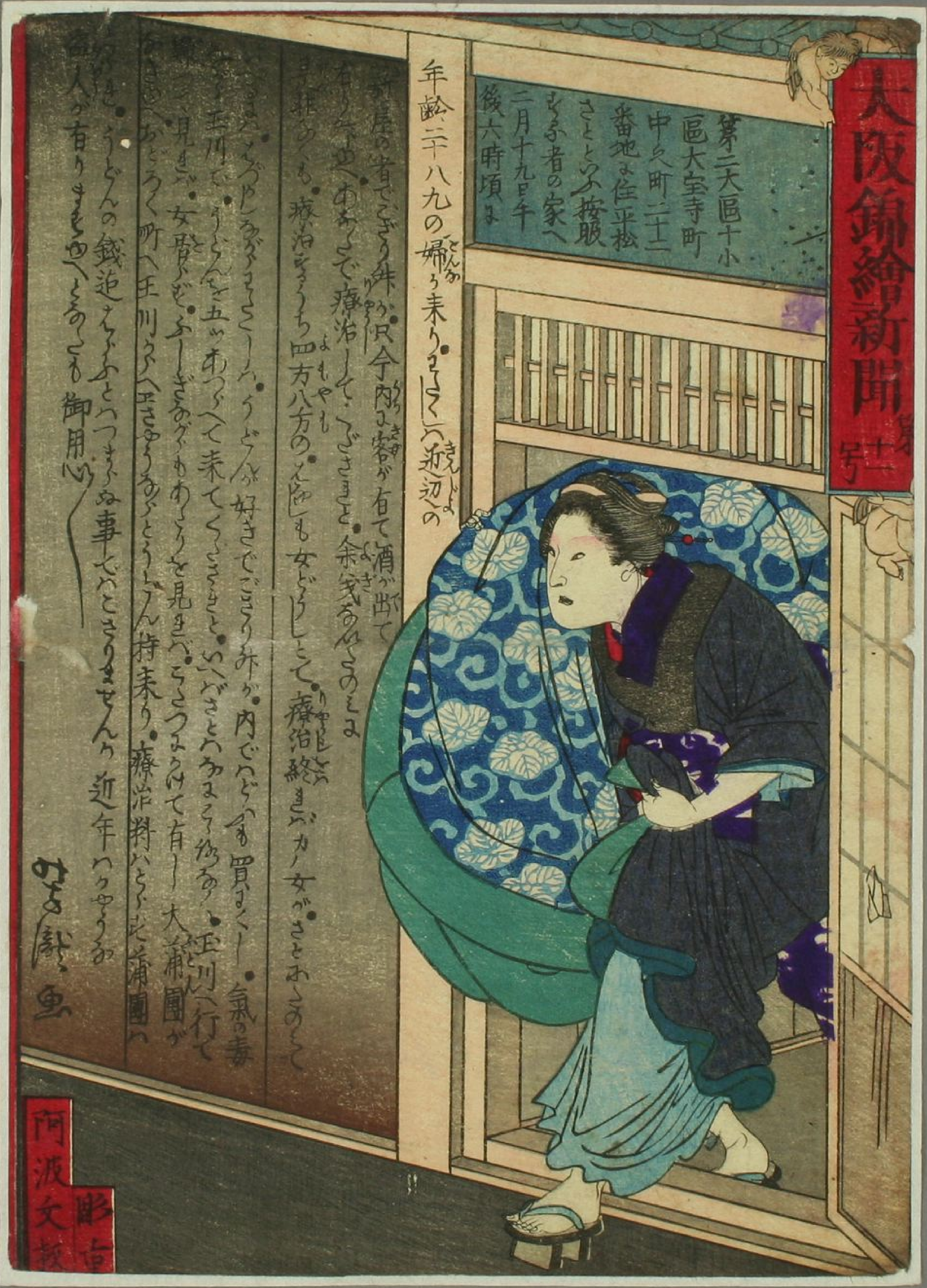
大阪錦繪新聞

第十二号



第二大區十小區大宝寺町中之町二十二番地に住平松さとゝいふ按腹をする者の家へ二月十九日午後六時頃に

年齢二十八九の婦(をんな)が来り・まるでしらぬ近辺(きんじよ)の新屋の者でござり升が・只今内に客(きやく)が有て酒が出て有り升ゆへ・あなたで療治して・ござさまと・余義(よぎ)なくそのことに御非ながらも・療治をうち四方八方(よもやも)の咄しも女どうしとて・療治終(りやうぢをはり)ましたが九ノ女がさとにいふて・わるいことござりますがくしてい・うどんが好きでござり升が・内でうどん買ますべし・氣の毒なら玉川で・うどんを五ッあつらへて来てくださいと・いへばさとハあいよと返事・玉川へ行て聞ば見ますが・女客ハどふしたかと・わるがへりを見ますが・ところへうけて有し・大蒲團がなきゆへあとかく所へ玉川から・五ッさうどんがとうどん持来り・療治料ハとらず蒲團ハなくなり・うどんの錢迄とられつまらぬ事でとさりません近年ハかやうな悪人が有りますゆへくれぐれも御用心〳〵

芳瀧画

彫占

阿波文版